



IMAGINE
ROTARY

Rotary
RID2780



Rotary International District 2780

ガバナー月信

2023年
2月号 No.8

取り戻そう! 記憶に残る年にしよう!

IMAGINE ROTARY IMAGINE ROTARY IMAGINE ROTARY IMAGINE ROTARY IMAGINE ROTARY IMAGINE ROTARY



クリスマス会



絵画コンクール



友好クラブの花巻南ロータリークラブとの集合写真

大和RCの親睦活動、奉仕活動の様子

IMAGINE ROTARY IMAGINE ROTARY IMAGINE ROTARY IMAGINE ROTARY IMAGINE ROTARY IMAGINE ROTARY

2022-23年度国際ロータリー第2780地区ガバナー

佐藤 祐一郎

クラブ会長・幹事の皆様、 そしてクラブ会員の皆様へ

国際ロータリー第2780地区
2022～23年度ガバナー

佐藤 祐一郎

(津久井中央RC)



1月半ばには田島ガバナーエレクトもオーランドの国際協議会から帰国し、いよいよ今月からは地区チーム研修なども開催され、次年度に向けての準備が始まります。着々と準備が進むことを期待しております。

しかしながら、本年度もまだ5か月残っています。

剣道の教えに「放心」と「残心」という言葉があります。「放心」とは、ポーっとしている状態ではなく、捨て身になって心を放ち、「気」「剣」「体」の全力で打ち込んで行くことであり、さらに打ち終わった後でも油断せず、次に起こるどんな変化にも応じられるような身構えや心構え、「残心」がなければならぬとしています。試合でも打ちっぱなしで「残心」が無ければ、一本は取り消しになってしまいます。元々が真剣での勝負ですから、切り付けた後も反撃されることを想定して、対応できるようにしなければならないのです。

放心と残心は、コップの水を少しずつこぼしていくと、水は一滴も残らないのに対し、思い切って一気にパッと捨てると、コップの内側にいくらかの水が残るといった現象に例えられます。次年度のために力を出し惜しみするのではなく、残余の期間も全力で取り組んでこそ、次年度への布石になるのではないかと考えております。

本年度はクラブの自主性と会員一人一人を重んじ、「取り戻そう」「記憶に残る年にしよう」をテーマに置きました。次年度のためにも精いっぱい楽しみ、目標に向けてのさらなる行動を期待しております。

一方、青少年交換や米山奨学生のオリエンテーションも始まっています。ロータリー財団の奨学生や平和フェロー、インターアクトなども、ロータリー年度途中で（4月から）新年度を迎えます。

実は、昨年、こんな経験をしました。

ある地区の地区大会に17歳の女子高校生が招かれていました。彼女は昨年、ウクライナの状況にいたたまれず、同級生からカンパを募り、ボランティア活動のために単身ポーランドに向かいました。そして、たまたま青少年交換で来日経験があり、現在ロータリアンとなって日本との懸け橋になっているポーランドの青年と知己を得て、ウクライナから避難して来た子供達の世話を3か月間もしたのです。帰国後、その行動を伝え聞いた某クラブがスポンサーに名乗りを上げ、7月からは青少年交換学生として再びポーランドの地に立つことになっているということでした。

私たちに彼女のような行動力や発想があるでしょうか。彼女に限らず若者は私たちが学ばねばならない行動力や発想、そして最新の知識を持っています。奨学生や青少年は、ロータリーにとって単なる奉仕の対象、単なる受益者ではありません。最近時折耳にするクロスメンターシップという関係が、ロータリーと青少年の間にはあるのです。ロータリーとして、またその会員として、世界の目まぐるしい変化に適応していくためには、こういった関係こそが重要な要素になってきているような気がしてなりません。「学友はロータリーの宝」という言葉は真実であり、軽々にはできないと思いました。

物事に積極的に関わり行動することにより、私たちは様々な経験を積み重ね、学ぶことができ、さらにそれは喜びに昇華し、楽しむことができます。私も、他地区の地区大会に参加したからこそ、前述のような事実を知り、学び、感動することができました。人の集まる所には情報が集まります。ロータリーで得られる情報は、様々な団体の中でも価値あるものだと考えます。

仕上げの5か月、これからは各グループのIMも開催されます。「集い」「楽しみ」、そして記憶に残る年度にいたしましょう。

『社会・国際奉仕委員長研修会開催について』

地区社会・国際奉仕委員会
委員長 **山口俊明**
(藤沢東RC)



師走の何かと慌ただしい中、冬晴れが心地よい天候に恵まれ、2022～23年度国際ロータリー第2780地区、地区社会・国際奉仕委員長研修会を地区ロータアクト委員会と共同して2022年12月10日(土)、アイクロス湘南(6階E号室)で対面方式にて開催致しました。佐藤祐一郎ガバナー、相澤光春P G、大谷新一郎P G、ガバナー補佐の皆さんをはじめ地区、クラブ概ね86名の参加を頂きました。

「やってみよう、新しい何かを」テーマに、講演、グループディスカッションの構成で進行され、講演では古谷田紀夫委員(大和田園RC)が社会奉仕について「よりよく生きるとは」をテーマとして「皆さんに一人一人考えて頂き、社会奉仕を通して地域の中での貢献、クラブの中での貢献の道しるべとなれば有難いと述べられ、参考資料に基づき外国人労働者の重要性を強調され、外国人労働者が来日する背景や日本との文化の違いを学び、学びから彼らのルーツに関心が湧き「対等」な関係が結べる」と講演して頂きました。

山口道孝委員(鎌倉中央RC)は国際奉仕について「グローバルに生きるとは」をテーマに、想像を絶する悲惨な体験や貧困の悲しさなど多くの体験から、国際奉仕を3つに分けて説明。①苦しんでいる人たちと、ひたすら共にいる。②少額の資金で小さな支援活動をする。③小規模であっても、持続可能なプロジェクトを実施する。『平和』『環境』『人権』

を無視せずポジティブな歴史の一部を作る側に立ち、ひとりでも多くの会員が、『やってみよう、新しい何かを』に挑戦すれば、世界は大きく変わると、私は本気で信じています」と講演されました。

そしてリソースネットワーク創設のご案内を向井稔委員(鎌倉RC)に講演して頂きました。「ロータリーを各人が自分で『IMAGINE』するのは決して簡単ではない。『IMAGINE』をサポートする新たな情報インフラとして、地区リソースネットワークを導入することが推奨されている。リソースネットワークとは、実際の奉仕活動に役立つ専門知識や経験を有する地区内の様々な人材(リソース)をネットワーク化し公開して、地区内の共通の情報として可視化・集約するものである。現実的には、地区ホームページに、あらゆる会員が容易にアクセスできるような形で、『リソースネットワーク』というサイトを創設することが望ましい。」と話されました。

グループディスカッションではテーマを「奉仕活動に関して個人として又クラブとしてどんな未来が想像できるか」をテーマに10グループに分け、自由、闊達な討論して頂きました。終了後、研修会の所感をロータアクト地区代表の石川大さんにお話しいただき、相澤光春P Gに総括して頂き閉会となりました。ガバナー事務所のスタッフ皆様はじめ関係各位の協力に心より感謝申し上げます。



CONTENTS

ガバナーメッセージ	2
月間テーマについて	3
インターアクト国内研修	4

クラブ紹介(第6グループ)	6
2023-24年度会長テーマ	11
国際協議会報告	12
新会員紹介 他	13

『地区インターアクト国内研修 事業報告』

インターアクト委員会

 委員長 林 雅 巳
 (鎌倉RC)


去る12月25日から27日の日程で佐藤祐一郎ガバナーを団長として第2670地区（四国4県）の今治ロータリークラブ（愛媛県）が提唱する今治明德学園高等学校矢田分校を当地区インターアクター（以下、「アクター」という）17名（6校）で訪問する「インターアクト国内研修」を開催いたしました。この事業は第2590地区（神奈川県横浜市・川崎市）との共催で3地区のアクターが集い交流を計ることができました。

初日、「今治明德短期大学」への到着後、歓迎セレモニーを行い、それに引続き交流を計りやすいため3地区のアクターを11グループに分けてのアイスブレイクで、和やかな雰囲気になりました。その後、「しまなみの杜リゾート」に会場を移し、懇親会を行いました。感染症対策のためアクリル板が設置されたテーブルに4名が着座する設えで、大きな声での会話が制限されていた中でも一生懸命交流を計るアクターの姿に感心させられました。

2日目、「今治明德短期大学」を会場とし、今治検定の問題など15問に取り組み、今治の歴史・史跡やゆかりの人物について知る機会となりました。その後、市内の史跡巡りや観光スポットである「タオル美術館」、海峡を往来する船舶の管制塔である「来島海上交通センター」を巡りました。夕

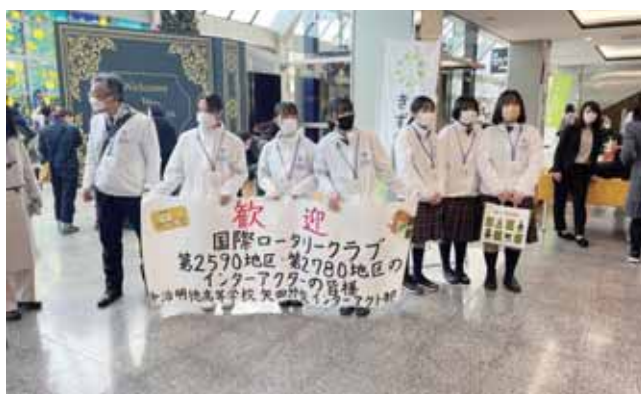
方からホテル菊水今治を会場にし、第2670地区RYLA研修について米山徹太RYLA委員長（松山ロータリークラブ）に講演いただき、引続き3地区合同の懇親会をおこないました。

3日目、今治城を見学したのち、しまなみ海道を使い、「来島海峡大橋」→「亀老山展望台」（新国立競技場を設計した隈研吾氏による設計）→「大山祇神社」→「多々羅しまなみ公園」の順で巡り、広島空港を経由して帰路につきました。

アクターの「国際理解と親善を推進すること」を目的に例年、第3481地区（台湾台北市）を訪問し、現地のアクターと交流を行う台湾研修を開催していました。今年度、当委員会では新型コロナ感染症蔓延のため2年間中止されていた当研修を再開すべく準備を進めてきましたが、台湾国内の渡航後隔離などの感染症対策に対応することが難しいと判断し、8月に事業の中止決定を行いました。その後、アクターの「指導力養成」を目的とし、第2590地区のご協力のもと本事業開催にこぎつけることが出来ました。開催に際しまして各提唱クラブの皆さま、各学校を含めた関係各位に多大なるご協力いただいたことに感謝申し上げます。今後も変わらぬご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



インターアクト



厚木ロータリークラブ

会長 和田 勝美

厚木ロータリークラブは創立62年を迎え、昨年11月15日には第3000回の記念例会を、行うことができました。佐藤ガバナーと富岡ガバナー補佐をお招きし、会員の卓話や例会の一部を地元ケーブルテレビで放映してそれぞれの会社やご家族にも好評をいただき会員の励みになりました。62年の歳月をかけて3000回を積み重ねてきたのはその数だけ、その時々の方の会員の思いが込められてきたものと、敬意と感謝の気持ちを新たにいたしました。

継続事業として青少年育成のためのティーボール大会の支援、鮎まつり後の早朝清掃参加、士業会員による市民への無料相談会があります。コロナウイルス感染症の影響で、いまだ例会での食事は距離を取っての黙食を続けていて、対外活動も制約がある状況ですが、地域の役に立つ活動を心がけ、ロータリーの仲間を増やししながら、4000回の例会に向けて、ひとつずつ、1回ずつ、全会員で思いを込めて積み重ねていきたいと思っております。



大和ロータリークラブ

会長 吉岡 善一

大和ロータリークラブは、創立61周年、会員数は36名、内6名が女性会員です。例会は、毎週火曜日のランチタイムに大和駅前の北京飯店で行っています。

青少年奉仕活動の一環として、市内小学生を対象とした「絵画コンクール」を開催、第4回目の今年度は464名の作品が集まりました。

会員の画家の指導の下、全員参加で和気あいあいと審査会を執り行い、大和市文化創造拠点シリウスのギャラリーで展示会および授賞式を執り行いました。当日来館いただけなかった方のために、VR展示をホームページに掲載しております。

12月には毎年恒例の家族親睦クリスマス会を「うかい亭」で開催、0才児を含む多くの参加があり、ご家族・会員によるピアノ、三味線、ギター、歌もあり大いに楽しみました。

友好クラブである「花巻南ロータリークラブ」には毎年多くの会員が参加し会員相互の友好を深めております。

姉妹クラブの「台北七星ロータリークラブ」からはパストガバナーが来られましたが、コロナが明ければまた大勢でお伺いする予定です。



絵画コンクール



クリスマス会



花巻南RC

座間ロータリークラブ

会長 樋田 一 徳

当クラブでは、毎年座間市立図書館わきに END POLIO NOW の屋外看板を設置し広報を行っておりますが、世界ポリオデーに向けて座間市役所広報塔に懸垂幕の掲示や、座間市道にかかる歩道橋に横断幕の掲示を行い広く市民等に周知させていただく活動を行っております。

また、座間市民ふるさと祭りでは広報や募金を行いこちらでも多くの方にロータリーの活動を知っていただく機会となりました。

今後も、会員一丸となり従来の奉仕活動もしつつ新しいことにもチャレンジしていきたいと思っております。皆様のご協力、ご支援のほどよろしくお願ひいたします。



大和中ロータリークラブ

会長 石川 達 男

大和中ロータリークラブは、永年姉妹クラブとして交流している韓国、東慶州ロータリークラブがあります。そのメンバー14名が11月10日から3日間来日されました。新型コロナウイルスがまだまだ収束しない困難な状況にもかかわらず、来日され合同例会を開催し交流できましたこと嬉しく感じております。40年にも渡って交流が出来ますことは、両クラブの先輩方の努力の賜物だと思っております。



東慶州RCのゴンドンチャン会長を始め、クラブのメンバーに敬意を表したいと思います。これからも両クラブの相互理解と親善がはかられ、益々の交流が出来ますことを確信しております。メンバーは、翌日ゴルフプレーの交流を楽しんで帰国されました。ご尽力頂いた国際奉仕・姉妹クラブ委員会の皆様、有難うございました。次回は、本年6月の離就任式の訪問です。その頃までに、コロナウイルスが沈静化することを祈らずにはられません。



厚木中ロータリークラブ

会長 山口 光正

(新春)

まるで悪い魔法が解けたように、当クラブでは今や笑顔と輝きが絶えない。まだ経験の浅いメンバー一人一人に先輩たちが声をかけ、若いメンバーがそれに答えて前を向く。皆さん実に楽しそうで、ついつい私まで嬉しくなる。パンデミックという長い氷の時間、ロータリーの楽しさ・意義も伝えられずに私も先輩たちも随分と悩まされた。「想像してみようよ これからの私たちを」、私たちにはロータリーを楽しむ確かな権利がある。

(リーダーシップ)

過去の当クラブの地区行事への参加率は、残念ながら僅か4%ほどだった。今年度会長が就任以来、参加率は90%近くまで劇的に飛躍した。「何故か?」、幹事として常に彼の傍にいたが、私(し)を捨て、会のため・会員一人一人のために奮闘するお姿には深い感銘を覚える。結局のところ「素晴らしい組織には、必ず素晴らしいリーダーが存在する」ことを正に証明している。

幹事 五十嵐 直樹



大和田園ロータリークラブ

会長 塩田 正雄

今年の地区のテーマ「取り戻そう、記憶の残る年にしよう」まさにコロナ禍で自粛ムードのクラブ活動の中、親睦の大切さを感じた3年間でしたが、今年は極力行事の中止などはせず、状況を把握しながら通常の例会、家族会、イベントなどを心がけております。

3年ぶりの家族例会も開催できました。屋外で会員のお庭をお借りしてのバーベキュー大会は、出前出張寿司をはじめ、大変心温まる家族会になりました。例会も通常通りに開催しており、地区からの卓話者なども多くお呼びして、ロータリーをしっかりと学ぶ1年になりそうです。

今年40周年を迎える大和田園ロータリーですが、会員同士の友愛に満ち溢れた素晴らしいクラブです。先輩達が築き上げたこの素晴らしいクラブの会長を任された重責をしっかりと受け止め、残り半期楽しみたいと思います。



バーベキュー家族会

40周年記念事業・サッカーをする望月会員

海老名ロータリークラブ

会長 高橋 裕之

「丁寧にしてスピード感をもった活動を」

海老名ロータリークラブは創立36周年目に入り、昨年末には記念すべき1500回例会を迎えることができました。今まで進めてきた活動や思いを取り戻すためには「丁寧な対応と、できる事から始める」を心掛け活動を進めております。また、この機会を好機と捉え既存事業を見直しながら、新規事業への足掛かりをつかむため日々活動しています。



クリスマス例会お菓子

10月には3年ぶりに開催のえびな健康マラソン大会へ協賛及び大会の運営に移動例会として携わることができました。12月のクリスマス例会では新事業として市内障がい者施設より購入した菓子の詰め合わせを家族にお届けすることができ、1月には姉妹クラブ訪問を再開、台北市華安ロータリークラブのチャーター記念例会にも参加をすることができました。年間の活動も振り返り点を過ぎ、次年度への助走期間も含め残された時間をクラブメンバーが共感できるよう全力でチャレンジしてまいります。



海老名健康マラソン



姉妹クラブ訪問

海老名樺ロータリークラブ

会長 小川 満

2022～23年度、2名の新しい仲間に加わっていただき、新年度にふさわしいスタートを切ることができました。

会長所信に始まり、夜間親睦例会や他クラブとの合同例会、しばらくぶりとなった移動例会や様々な卓話等計画通り事業が進む中、10月のガバナー公式訪問例会においては、佐藤ガバナーに対するおもてなしの気持ちと、クラブの意気込みや会員相互の更なる結束力を深める意味で「100%出席例会」を目指し、無事に達成することが出来ました。クラブとしての一体感を感じる例会になったように思います。



奉仕活動において、継続事業である海老名市ミニバスケットボール大会への協賛、海老名大樺の清掃を予定しておりますが、今年度は新たに地区補助金を活用させていただき「海老名大樺再生プロジェクト」の企画に取り組んでいます。県の天然記念物であり樹齢約580年と推定されるクラブ及び地域のシンボルでもある「大樺」。挿木という手法にてその再生活動を試み、市民の環境意識を高め、歴史遺産としての価値を繋ぎ、地域緑地化を実践する為のプロジェクトです。

海老名樺ロータリークラブの一番の長所である「アットホーム」な雰囲気を大切に、メンバー一同一丸となって今後も奉仕活動に取り組んで参りたいと思います。



厚木県央ロータリークラブ

会長 新川 勉

厚木県央ロータリークラブは1998年4月に創立し今年で25周年を迎えます。現在の会員数は41名で活動しております。厚木県央ロータリークラブは設立当初より風通しの良いクラブで様々な奉仕活動にチャレンジをしてまいりました。横浜バイスターズの選手による野球教室や小学校のグラウンドでの野外映画会、また広く市民の方に我々の活動を理解してもらうように著名な方等をお呼びして公開例会を開催させていただいております。



バイオリニストの佐藤陽子さんやダニエルカール氏、戦場カメラマンの渡部陽一さんたちをお呼びしてコンサートや講演会を開催してまいりました。公開例会を通じて広くロータリークラブの認知度向上や会員の増強にも努めてまいりました。

また国際奉仕では地区補助金をもらってのラオスの小児病院の支援も引き続き支援しておりますがコロナの関係でこの2年は現地に行くことが出来ずしております。今後も青少年へのスポーツを通じた健全育成活動にも引き続き積極的に関与していきたいと思っております。

25周年を記憶に残る一年にして更なる飛躍するロータリー活動を行ってまいります。



本厚木ロータリークラブ

会長 菅沼 浩一

2018年創立した本厚木ロータリークラブは、2023年4月に創立5周年を迎えます。厚木市およびその周辺地域をテリトリーとし、現在36名の会員が在籍しています。そのテリトリーの4番目のクラブであることの長所および短所と向かい合いながらのクラブ運営をしているところです。



クラブの主となる事業として「少年野球大会」への支援・奉仕を据えて、創立年度より、コロナ禍の中でも何とか継続して実施してまいりました。その中心として協力する「クラブ野球同好会」には選手・応援隊を合わせ、20名余の会員が所属しています。そのほかにも「ゴルフ同好会」「グルメ同好会」などが活動しており、会員相互の親睦に寄与していると思っております。

今年度は、基本方針としてSDGsの理念を掲げ、昨年までに神奈川県ならびに厚木市のSDGsパートナーの登録を済ませ、今年2月4日には「ボードゲームで学ぼう！SDGs」のイベントを開催します。地球＝ブループラネットの恒久的持続性を願って、確実に活動していこうと考えております。



『RI会長エレクトが2023-24年度会長テーマを発表』

サウス・クイーンズフェリー・ロータリークラブ（スコットランド）の会員であるゴードン R. マッキナリー国際ロータリー会長エレクトは、1月9日、米国フロリダ州オーランドで開催中のロータリー国際協議会で講演し、2023-24年度会長テーマ「世界に希望を生み出そう」を発表しました。この講演でマッキナリー氏は、問題を抱える国で平和を推進し、紛争の影響を受けている人びとを助け、過去のリーダーたちが始めたイニシアチブを引き継いでいくよう会員に呼びかけました。また、世界の注目を集め、現在の期待をはるかに超える可能性を切り開いていくことを求めました。

「私たちの目標は、破壊的な紛争から世界が立ち直れるように、希望を取り戻すことです。そうすれば、私たち自身のために持続可能な変化をもたらすことが可能となります」とマッキナリー氏は述べました。

また、タイで出会った一人の女性の話を紹介しました。そこでは、2004年末に南アジアを襲った津波の後で、ロータリー会員が家屋や集会場、保育・医療施設の建設にあたっていました。津波で夫、娘、息子を失くし、生計手段も失ったというその女性は、マッキナリー氏にある物をプレゼントしました。それは、美しい貝殻でした。

「彼女は、ロータリーのおかげで前向きな気持ちを取り戻すことができたと話していました。私たちは彼女に希望を与えたのです」とマッキナリー氏。「これこそ、ロータリーが世界にもたらしている変化です。この変化が、一つずつ希望を取り戻し、新たな希望を生み出しています」

2023～24年度RI会長テーマ

「世界に希望を生み出そう」

CREATE HOPE in the WORLD



世界に希望を生み出そう



『RI 2023～24年度 国際協議会研修会に出席して』

第2780地区

ガバナー・エレクト **田島敏久**

(相模原西RC)



2023年1月9日～14日、米国FLORIDA州ORLANDOにて国際協議会が3年ぶりに対面で開催され出席して参りました。

期間中、歓迎RECEPTION、7回の本会議、9回の分科会、文化交流会、閉会SESSION・晩餐会が行われ、第1回本会議にて、ゴードンRマッキナリーRI会長エレクトが講演し2023～2024年度会長テーマ『**CREATE HOPE IN THE WORLD - 世界に希望を生み出そう**』が発表されました。

マッキナリーRI会長エレクトは「**継続**」と「**変化**」の重要性、「**平和**」と「**希望**」について熱く語られました。

【「継続」と「変化」】

過去のLEADERの良いIDEAを前進させる。

I：ローターアクトの地位の向上

ロータリークラブとローターアクトクラブの協力・支え合うこと。

II：女兒のエンパワーメント

世界中の少女が強く、十分な能力を持つ女性に成長できるように支援することを引き継ぐこと。

III：DEI《多様性、公平さ、インクルージョン》の促進

ロータリーをどこからであれ最高の人材、最高のアイデア、最高のパートナーシップを受け入れるオープンでインクルーシブな組織にすること。

IV：ポリオ根絶

ロータリーの最優先事項
寄付目標：最低5,000万ドル。

V：ロータリーの行動計画の実践

行動計画は、希望を生み出し、変化に必要な知識と勇気を与えてくれる。

『ビジョン声明』

「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。」

《実現するための2つのFACTOR》

①平和への更なる主眼

平和とは希望が根付く土壌である。

②世界に希望を生み出そう

—CREATE HOPE IN THE WORLD

ロータリーが世界変化をもたらす方法

VI：メンタルヘルス

- ・新型コロナの流行や紛争により多くの人が傷ついている。
- ・助けを求めることに対する社会的な偏見をなくすこと。
- ・ほかの人を助けることでストレスが軽減され、気分が良くなり、自身のメンタルヘルスと幸せのためにもなることが示されている。

【「平和」と「希望」】

これらの活動すべてにおける目標は、破壊的な紛争から世界が立ち直れるように、希望を取り戻すことです。

私たちが得意とすることを継続すると同時に、変化に対してOPENで前向きになり、世界と自分自身の中に平和を築くことに力を注げばロータリーがより平和でより希望のある世界を築く手助けができます。



ゴードン会長



ゴードン会長夫妻と



国際交流 姉妹地区RID3662韓国ユンガバナーご夫妻と

新会員紹介 ①所属 ②入会日 ③職業分類 ④スポンサー



せきの ゆうたろう
関野 裕太郎
①秦野
②2022. 07. 19
③小売業
④和田俊弘、
北村久史



なかざわ ひでき
中澤 秀樹
①ふじさわ湘南
②2022. 08. 08
③建築板金・飲食
④坂根隆志



しのはら ともこ
篠原 智子
①藤沢北西
②2022. 11. 17
③不動産
④阿部貴之



ご よしあき
呉 佳亮
①相模原ニューシティ
②2023. 01. 10
③土木業
④菊永 雅、
古谷淳史



さえぐさ とみひろ
三枝 富博
①相模原南
②2023. 01. 10
③大型量販店
④徳久京子、
藤原新一



くどう ひさし
宮東 悠
①大和
②2023. 01. 10
③洋菓子製造
④小金澤和夫



いしい ゆうこ
石井 祐子
①相模原西
②2023. 01. 11
③不動産管理
④唐津 昇



たじま よしかず
田島 義一
①藤沢
②2023. 01. 12
③酒類卸売業
④田中正明、
川上彰久



もりた えりこ
森田 江利子
①相模原ニューシティ
②2023. 01. 12
③音楽教室
④山中 仁、
安西 登



のだ じゅん
野田 淳
①小田原中
②2023. 01. 19
③保険事業
④高橋康德

お知らせ

『ブチャの人々への発電機寄贈に対する義援金』
のご協力を有難うございました。

現在、現地への送金手続きを行っております。

追って報告書をクラブ宛てにお送りいたします。

22-23 新会員's VOICE 第7グループ

今回は、第7グループの新会員さんのインタビューが新着UP!

動画はこちらから。過去の動画も観られます。チャンネル登録・動画への「いいね」もお願いいたします!



地区会員増強委員会
You Tube

<https://youtube.com/channel/UCR2fp4or99NLh-35uFoNdSA>
(地区会員増強委員会チャンネル)

